

情報リテ成續評価の標準化

成績評価の指針

- 情報リテラシー実践Ⅰ、Ⅱでは、成績評価に関して、文部科学省の言うところの単位授与の厳格化・標準化、また、GPAへの影響も鑑み、以下を参考として捉えるが、端的には極端に厳しい、または、極端に寛容な評価を避けるようにしたい。
- 成績評価は以下の2点に基づき、総合的に判定する。
 - 出席回数(4回以上欠席は原則として不合格)
 - 成果物(課題など)、発表内容、授業態度

平成20年2月22日

第6回 TMU FDセミナー

成績評価方法について

「都市教養学部理工学系における成績評価方法」

理工学系化学コース

伊與田 正彦

理工学系の授業に参加する学生数

理工学系学生数

(1-4年定数)

計 1040名
(実際は780名)

数理学	160名
物理学	180名
化学	180名
生命科学	200名
電気電子工学	160名
機械工学	160名

その他の理系学生数

(1-2年定数)

計 1340名(実際は1000名位)

都市環境学部	400名
システムデザイン学部	540名
健康福祉学部	400名

理工学系の授業の種類

理工学系学生

(1-2年生) — 理工系共通基礎科目 110 科目

(3-4年生) — 理工学系専門科目 185 科目

その他の理系学生

理工系共通基礎科目

数学	45 科目	生物	8 科目
物理	31 科目	電気	8 科目
化学	13 科目	機械	5 科目

受講学生数(全ての学生の合計)

理工系共通基礎科目(延べ人数)	8500 人
理工学系専門科目(延べ人数)	8100 人

首都大になってから生じた共通基礎科目の問題

(昨年度の段階)

(1) 学生のレベルと授業内容のミスマッチ

例: システムデザイン

物理通論Ⅰ、一般化学Ⅰ、解析入門

(平均点: 2.18) (平均点: 2.48) (平均点: 2.13)

(a) 都立大の学生の平均履修率(50%以下)を考えていたところ、90%以上の学生が履修 例: 離散数学

(b) 入試科目では課していないが大学で必修指定 例: 物理の基礎科目

(2) 学生数と講義室の広さの問題

解析入門Ⅰ: 163名 } 黒板に書いて
確立統計Ⅱ: 149名 } 説明できない
化学概説Ⅰ: 147名 } (狭い教室、小さな黒板)

昨年3月に改善に向けて話し合いをした

理工学系における成績評価

(1) “相対評価”と“絶対評価”

理工学系の教員は絶対評価を好む
「講義内容は担当教員に任されている」

(2) “相対評価”とGPA

理工学系では、GPAを早期卒業の予備申請
および判定基準に使用

GPA (Grade Point Average)

2005年現在、248大学 (35%) が導入

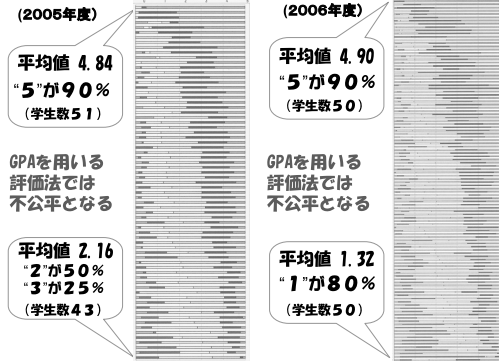
学習の量ではなく、質を問うことができる

“成績表示”とGPA素点

成績表示: 5 4 3 2 1 0
GPA素点: 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0 0.0

一部のコースでは学生が受講科目数を減らして、GPAを上げるようになっている

理工学系共通基礎科目の成績 (成績分布グラフ)



理工学系共通基礎科目の成績

(2007年度)

2006年度後期から平均点が3.0-3.5になるよう呼びかけ

平均値 4.47
"5"が46%
"4"が40%
(学生数69)

(2005年度)
4.84-3.64 22.9%
3.55-2.95 45.3%
2.90-2.16 31.8%
(総学生数5447名)

(2007年度前期)
4.47-3.60 26.7%
3.54-2.96 51.9%
2.93-2.18 21.4%
(総学生数5001名)

(2006年度)
4.90-3.56 26.1%
3.54-2.96 44.7%
2.89-1.32 29.2%
(総学生数5491名)

平均値 2.18
"1"が28%
"2"が33%
(学生数93)

2006年問題?

理工学系共通基礎科目の成績 (まとめ)

- 極端な成績を出す教員が無くなった
- 平均値が3.0未満の講義数が減っている
- 成績の平均値が3.0-3.5に向かいつつある

成績の平均が3.0-3.5向かう



(4) 成績評価に“曜日効果”があるのか? (2006年)

4.90 (金、電)、4.61 (金、物)、4.47 (金、数)、4.08 (月、数)
1.32 (月、電)、2.00 (金、数)、2.13 (月、数)、2.28 (月、機)

月曜日と金曜日の授業の成績には、極端に平均点の高低がある

理工学系専門科目の成績 (2006年度後期)

1クラスの学生数
13-67名
(総学生数2990名)

ゼミ、演習、実験 →
平均値 4.44
"5"が50%
"4"が36%
(学生数56)

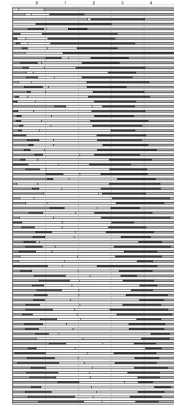
5.00-3.63 34.0%
3.47-2.95 47.3%
2.87-2.05 18.7%

2006年度後期から平均点が3.0-3.5になるよう呼びかける

平均値 2.30
"1"が37%
"2"が20%
(学生数30)

演習 →

理工学系専門科目の成績 (2007年度前期)



(ゼミ、演習、実験を除く)

(2007年度前期:含演習)
5.00-3.62 35.2%
3.58-2.95 48.7%
2.93-1.77 16.1%
(総学生数5173名)

1クラスの学生数
13-64名

(総学生数3596名)

平均値 2.65
"1"が27%
"2"が11%
(学生数44)

2006年度後期から平均点が3.0-3.5になるよう呼びかけ

理工学系専門科目の成績 (まとめ)

- 極端な成績を出す教員が無くなった
- 平均値が3.0未満の講義数が減っている
- 平均値が3.6以上の講義数が減っている
- 成績の平均値が3.0-3.5に向かいつつある

成績の平均が3.0-3.5向かう



演習科目を除くと、期待する成績評価値に近づいている

理工学系の成績評価: まとめ

- 成績評価のばらつきが減ったが、共通基礎科目では少し厳しい評価をしている

理工学系共通基礎科目の成績

理工学系専門科目の成績



(2) 1クラスの人数はもう少し減らせると良い(2007年前期)

微分積分 Id: 133名 線形代数 Ic: 121名
線形代数 Id: 116名 線形代数 If: 116名

(3) 演習科目の成績のばらつきを無くすことが必要(2007年前期)

○○○○演習 4.65 (34名) ○○○○演習 4.55 (40名)
●●●●演習 1.77 (49名) ●●●●演習 2.65 (53名)

都市環境学部

授業成績評価について

2008. 2. 22

都市環境学部(教授会)

相対評価を導入した目的

- 大学において「学生の授業成績を適正かつ適切に評価」することは、大学の社会に対する義務である。
- 従来、首都大学東京では「絶対評価」による成績評価を行っている。

成績表示	証明書表示	単位	100点法	GPA
5	優	○	90~	4.0
4	優	○	80~	3.0
3	良	○	70~	2.0
2	可	○	60~	1.0
1	非表示	×	~59	0.0
0	非表示	×	—	0.0

都市環境学部の成績評価の原則

- ① 履修科目の特質などに照らして「最も適切な形式」で成績を採点する。
- ② 科目の成績評価は、形式によらず絶対評価でおこなう。
- ③ 単位修得の可否は、上記の採点に基づき、絶対評価で行う。
- ④ 単位修得者の成績評価は、受講生が相当数以上の科目では、別表に示した比率構成を参考に行う。

成績評価・表示の原則

成績採点	単位認定	成績表示	構成比率	備考
絶対評価による採点	合格 (単位修得)	5 (優)	10 %	単位修得者を100%として
		4 (優)	30 %	
		3 (良)	50 %	
		2 (可)	10 %	
	不合格	1 (不可)	—	—
非履修	非採点	0	—	—

都市環境学部の成績評価の原則

- ⑤ 履修者の少ない科目は、別表の比率構成を参照しつつ、適正かつ適切に評価する。
- ⑥ 成績評価の形式(試験、レポートなど)については、採点結果が正規分布になるように工夫する。
- ⑦ 成績評価は、履修学生の授業への出席を前提とする。欠席や遅刻の程度によっては、期末受験やレポートの提出等を認めないことがある。
- ⑧ GPAの計測には、履修登録した全ての科目の成績評価(0.0~4.0)によって算出される。

相対評価のポイント

- 無理矢理「相対評価」をするのではなく、学生の成績が正規分布するように(成績の差が明確になるように)、成績評価の方法を工夫することにある。
- 学生の向学意欲を高め、「成績向上の努力が適切に評価できる仕組み」を目指しているものである。